

福島県学校給食研究会  
栄養士部会

第84号

平成26年2月1日  
福島県学校給食研究会  
栄養士部会  
発行責任者 横田みえ子  
担当 いわき方部

## 会 報

## 今年一年間の活動をふりかえって

福島県学校給食研究会栄養士部会長 横田みえ子

去る7月29日、郡山ユラックス熱海において福島県教育委員会、公益財団法人福島県学校給食会より御来賓の皆様をお迎えし、平成25年度の研修会が開催されました。

今年度の研修会は、福島県教育庁健康教育課主幹大和田範雄様よりお話をいただき、主任栄養技師田村正美様より学校給食における食事摂取基準導入や衛生管理について詳しく説明をいただきました。午後の部では、女子栄養大学副学長香川靖雄様より「放射線防護と食事」についてご講演をいただき、会員で情報を共有し2学期以降の食育指導に活用していることと思います。また、昨年度実施できなかった研究協議では県中方部の富田西小学校・星朱美先生、中学校給食センター・山田香織先生から「中学校における食育」について発表があり、福島市教育委員会学校教育課主任指導主事の栞田祐子様より指導助言をいただき充実した研修会となりました。

さて、今年度福島県教育委員会では1月24日から全国学校給食週間に合わせ、県庁において広く学校給食や食育への関心を高めるため「学校給食と食育展」を実施し本部会も協力したところです。この会報が発行される頃には、学校給食の歴史や朝ごはんコンテスト入賞作品・審査の様子が展示され、県庁食堂では4日間にわたり1日50食限定で学校給食メニューが提供され、きっと大好評のうちに終了していることでしょう。本部会では、献立の提供と併せ県内の学校でも可能な限り同じメニューを実施しました。この取組みは、多くの人に学校給食を理解して頂き、また、各施設で「子どもたちのために」と努力している栄養教諭・学校栄養職員、給食主任の先生方の気持ちをひとつにする取組みとなりました。このような企画をしてくださった県当局に感謝申し上げます。



## 笑顔あふれる給食に感謝

いわき市学校給食研究会長 柳 沼 久 裕  
(いわき市立沢渡小学校長)

12時15分、まず1・2年複式学級の給食当番の子どもたちが配膳室前に到着。横一列に並んで手を合わせ、大きな声で「いただきます!」。そのあと、3・4年生、5・6年生が順に続く。学年関係なくあいさつはいつも元気いっぱい。これが沢渡小学校の給食スタート、いつもの光景だ。

私は、検食を終えたあと、各教室の給食の様子を見て回る。特に、新メニューや郷土食などが取り入れられたときは必ず回るようにしている。「今日の給食おいしい?」と聞くと、みな一様に大きな声で「おいしいです!」と返してくる。しかも満面の笑顔だ。給食がおいしくて、会話が弾んで、みんなに笑顔があふれているというのは、子どもたちが楽しく学校生活を送っ

ている証拠だ。これは間違いない。

この子どもたちの笑顔に触れるたびに、給食を提供してくださる調理場の職員に対する感謝の気持ちが湧いてくる。限られた予算の中で、栄養のバランスを第一に、郷土食を取り入れたり、季節や年中行事に合わせたメニューを考えるのは容易でないはずだ。まして、野菜などの食材の価格の急な上昇にも対応しなければならない。放射性物質検査も継続していかざるを得ない。こんな制限だらけの状況で、子どもたちを笑顔にする給食を提供してくださる各給食調理場の栄養士さん、調理員さんに、心から感謝の言葉を贈りたい。「給食は、子どもたちの心と体の健康を支えています。毎日ありがとう。」

## 福島県の食育推進について

福島県教育庁健康教育課 指導主事 今井 不二子

日頃より、栄養教諭・学校栄養職員の皆様におかれましては、学校における食育の推進にご尽力をいただき、心より御礼申し上げます。

現在、福島県においては第二次食育推進計画の下、学校では「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」の育成に向けて、実態に応じ、教育活動全体を通して食育にお取り組みいただいております。しかし、東日本大震災及び原子力発電所の事故後、本県では食の安全・安心に対する新たな課題が生じており、これまで以上に食への関心が高まっております。皆様には、学校における食育推進のために、学校給食を生きた教材としての活用、児童生徒への食に関する指導時間の確保と指導内容の充実、児童生徒への個別指導の充実、学校・家庭・地域との連携など、多種多様な仕事が求められ、多忙な毎日となっております。

このような中、本県では、国の事業を受託し新規の「学校における食育推進プロジェクト」を実施しております。今年度は、食における課題の明確化と今後の方向性を検討するために「学校における食育推進委員会」を開催し、今

後各学校にこの内容を周知いたします。また、三春町を推進地域、三春中学校を実践推進校としまして、栄養教諭を中核とした食育についてすばらしい取り組みをしていただいております。中でも、県や自校の課題把握については、栄養教諭の所属校を対象とした食生活アンケートを実施し、養護教諭と連携して子どもたちの食の実態を調査しているところであり、栄養教諭の皆様には自主研修の中でアンケートの集計・分析にご協力いただいております。また、本県の児童生徒の健康課題である肥満の解消に向け、学校給食摂取基準により、一人一人に応じた適切な量が配食できるような献立や食に関する指導を工夫していただいております。

県としましては、次年度、食育推進の体制整備と食に関する指導の充実に視点を置き、事業を展開してまいります。美しい自然・豊かな食にあふれた福島県の子どもたちが、福島を大切に思い、夢と希望を持って生き生きと活躍できることを願って食育の面から支援してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

### 学校給食会の公益性

公益財団法人福島県学校給食会  
常務理事兼事務局長 五十嵐孝雄

110年ぶりの大改正となった公益法人制度改革は、昨年11月で5年間の移行期間が満了となり、従来の公益法人は、登記のみで成立する一般法人、公益認定を受けて公益目的事業を行う公益法人、いずれにも移行せず解散の3つに整理されました。公益法人数は、移行前に比較し半減しましたが、学校給食会は本会を含む46都道府県が公益法人に移行しました。

移行の中で、食品提供事業が公益事業と認定され非課税となったのは大きな成果といえます。学校給食会の食品提供事業は、単なる食品の売買ではなく、安全・安心、適正価格、安定提供、県内全域提供、地域事業者の参画など様々な価値や機能を付加した公益事業であるという主張が認められ、給食会はそれを実施する経理的基礎や技術的能力を有すると認定されました。

一方で、資金面では、収入や財産保有に厳し

い制約が課せられました。公益活動団体にとって資金確保は重要な課題です。寄附優遇税措置もありますが寄附文化になじみの薄い現状では容易ではありません。食品提供事業により収入を確保することになりますが、収入は必要経費を除きすべて公益目的事業に投資しますので、利用すれば利用するほど公益性は高まり、皆様への還元事業もより充実します。

何が公益かは時代とともに変わります。皆様からのご意見やご希望をいただきながら、先人が築いた学校給食会の公益システムに磨きをかけることが私どもの責務と考えています。移行3年目、職員一丸となって頑張りますので皆様の一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。





## いわき市の食育推進について

いわき市教育委員会事務局 学校教育推進室学校支援課長 本田 宜 誉

いわき市の学校及び学校給食共同調理場における食育の推進については、平成23年度末に発表した「いわきの復興に向けた教育メッセージ」において、基本目標を実現するための主要施策として位置づけました。これを受けてプロジェクトチーム（以下「PT」という。）を設置し、「給食を通じた食育の推進」を主なテーマとして検討してきました。

子どもたちの豊かな心と体をはぐくむためには、食を通して、家庭や地域が世代を超えて、連携強化を図っていく必要があります。そこでPTでは、「ひと・食・環（わ）」をコンセプトとして、子どもたちを中心に、学校と学校給食共同調理場が家庭や地域と連携を図りながら、食育を推進することとし、様々な事業が提案されました。

PTからの提案を受け、平成24年度には、超人シェフ倶楽部の中嶋会長を招いての「スーパー給食」や、いわき海星高校とタイアップした「かじきカツ給食」を実施しました。

今年度は、昨年度と同様に「かじきカツ給食」を実施したほか、磐城農業高等学校の生徒が考えた「まごわやさしい献立」や、生徒が製造した「梨ジャム」「トマトジュース」を使用した「オ



リジナル食材使用献立」を市内統一献立として、全ての小中学校に提供しました。

これらの事業では、高校生と小学生の交流会食会を開催しました。児童は、高校生の苦労や食材に対する思いなどを知り、食が様々な人の活動に支えられていることについて理解を深めました。

また食育の推進に関しては、家庭での取組みも重要であることから、多くの保護者にアプローチできる機会を設け、家庭における食育の充実を図っていくとともに、給食を架け橋として地域と関わり、食育や学校給食への関心を高め、世代間の交流をも図っていきたいと考えております。

今後も、食事を提供するだけでなく、「子どもたちの心と体をはぐくむ」役割を担っていきながら、安全な給食を提供していきます。

### 福島市・川俣町学校給食センターでの取り組み



福島市・川俣町学校給食センター  
副主任栄養技師 中島こふみ

当センターは、平成19年に完全給食を開始し、現在、川俣町の小中学校8校、福島市飯野町の小中学校4校の計12校、約1,700名の給食を提供しています。所長、栄養教諭、学校栄養職員、事務員、調理員15名、配送担当5名の計24名で業務を行っています。

食育活動においては、授業、学校保健委員会、講話、試食会、給食時間の学校訪問などの幅広い活動を行っています。

特に今年度は、福島県教育委員会による地元産の食材を活用した学校給食の提供を目的とする「いただきます。ふくしまさん」事業を実施しました。今回は、川俣シャモを使用した献立、「ごはん・牛乳・川俣シャモの照り焼き・ごまあえ・秋味なべ」を提供しました。当日は、給食試食会が行われ、104名の保護者の参加があ

りました。保護者からは、「川俣町の名産品を子どもたちが少しでも食べられたことはとてもよかった」「放射性物質検査がしっかりされているのでより安心した」などの感想が寄せられました。また事業後のアンケート結果では、「安心して食べられた」が94%、「やや不安」が5%、「とても不安」が1%でした。

現在、当センターでは、日々の給食用食材2品と、パン、麺、牛乳を除く給食1食分の放射性物質検査を行い、町のホームページに掲載しています。安心という判断は様々ではありますが、今後も保護者の皆

様に納得していただけるように努力していきたいと思



# 平成25年度 表彰

## 文部科学省学校給食功労者表彰

・川俣町立川俣南小学校 井間 眞理子

## 日本医師会長表彰

・郡山市立薫小学校 佐藤 由美子

## 学校給食優良団体施設

・白河市立白河第一小学校  
・会津若松市立小金井小学校  
・二本松市岩代学校給食センター

## 学校給食甲子園入賞 (タニコー賞)

・鮫川村学校給食センター

## 学校給食功労者

・前福島市立杉妻小学校 菊地 金子  
・相馬市立中村第一小学校 菊地 真知子  
・いわき市立四倉学校給食共同調理場  
鈴木 洋子



## SCHEDULE

### 平成26年度 行事予定

- 学校給食施設訪問実施状況点検  
5月～12月  
各施設
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修A」  
5月26日(月)～5月28日(水)  
磐梯青少年交流の家
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修B」  
10月15日(水)～10月17日(金)  
福島県教育センター
- 学校給食研究会栄養士部会研修会  
8月4日(月)  
郡山ユラックス熱海
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ  
7月30日(水)～8月1日(金)  
福島県教育センター
- 第55回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会  
7月31日(木)～8月1日(金)  
福井県
- 学校給食衛生検査技術講習会  
9月 ※予定  
福島県学校給食会
- 栄養教諭・学校栄養職員研修会 第1回  
10月下旬 ※予定  
福島県学校給食会
- 栄養教諭・学校栄養職員研修会 第2回  
10月下旬 ※予定  
福島県学校給食会
- 第65回全国学校給食研究協議大会  
11月20日(木)～11月21日(金)  
山口県



## INFORMATION

福島県学校給食研究会 栄養士部会のホームページを開設します。

アドレス：<http://www.f-eiyou.jp>

皆様のご意見やアイデア等、お待ちしております。

## 編集後記

会報発行にあたり、年末のお忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

今年度はようやくいわき市の中学校給食が再開し、子どもたちの笑顔と、栄養士としての喜びを改めて実感した年でした。

来年度も福島県の子どものために、力を合わせてがんばっていきましょう。

